

1 この科目の構成について

教 科	芸術科	科 目	日本画	単 位	1単位
対象コース	美術コース	対象クラス	3年8・9組		
使用教科書	美術Ⅲ（光村図書）				
使用副教材					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
	①膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など、伝統的な専門技法の学習 ②2年次で学んだ日本画の制作行程を応用し、本格的な制作に取り組む ④綿密な観察による描写の実習 ③日本画特有の空間表現の追究
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
	専門的知識と経験が必要な日本画は、約1ヶ月の集中授業の形式で学習し、専門の講師が指導にあたる。3年次では、2年次に学習した岩絵の具の基本的な使い方と、各種描法を応用して、更に大型の作品制作に取り組む。描法は、墨描きで進める方法と、画面に地塗りを施して描く方法、揉み紙をする方法の3種類から選択して制作する。また箔を使用する技法も学ぶ。 テーマは①「静物」、②「花」、③「風景」、④「自由課題」から選択。 風景はスケッチ実習で制作した作品を原画とする。自由課題の中には、事前に制作した動物園でのスケッチを原画とする作品が含まれる。
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
	(1) 学校 主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使う集中した制作を行う。放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。 (2) 家庭

3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何をを使って評価するのか—
	完成した作品によって評価する。 技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。
評価における定期考査の割合	
	0%

4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
	(1) 関心・意欲・態度 課題に取り組む意欲、態度 (2) 思考・判断 画面全体を構成する総合的判断力 (3) 技能・表現 デッサン力、色彩感覚、表現力 (4) 知識・理解 日本画画材の理解

年間学習計画			—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—		重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容		関	思	技	知
1	6 ～ 7	「日本画」	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本画」(52時間) F20雲肌麻紙に岩絵の具 ・テーマ <ul style="list-style-type: none"> ①「静物」 モチーフ(6月に決定) ②「花」(6月に決定) ③「風景」 ④「自由課題」 風景はスケッチ実習で制作した作品を原画とする。本年度は港の風景を描く。 技法は下記の3つの描法から選択する。 <ul style="list-style-type: none"> ①墨描き 濃淡2～3段階の墨で、線に強弱をつけながら骨描き。墨の線を生かしながら、岩絵の具で描く。 ②地塗り 黄土の白か、焦茶や黒の11番で下塗りした後、15番前後の岩絵の具を入念に塗り重ねる。 地塗りの上に岩絵の具で描く。 ③揉み紙 麻紙をもみ紙して、その後水張り。白か15番の細かい粒子の絵の具で地塗りを施す。地塗りした画面に岩絵の具で描く。 ・「箔」の技法を実習する。 銀箔、アルミ箔を使用 ・伝統的な専門技法の学習 ・日本画の制作行程を一通り実習 ・綿密な観察による描写の実習 ・日本画特有の空間表現の追究 ・画材 配布：F20パネル・F20画用紙・ 雲肌麻紙・トレーシングペーパー 持参：デッサン用具一式・水彩用具一式 <p>道徳教育を実施：日本画制作を通し、日本の再発見へと繋げ、日本文化を愛する心を養い、伝統を伝える事の大切さを学ぶ。</p>		●	●	●	●

